



平安

あったかハートで Hey! 安心!!

1年間ありがとうございました

学校長 久城 博之

行く月、逃げる月とのたとえもありますが、令和3年度も早いもので残り一月となりました。学校の周りの桜のつぼみもふっくらと丸みを帯びてきて、春がかなり近づいて来ているのを感じることができます。

今年は1月から2月にかけて、本校では、体調を崩した子どもたちが多く、のべ4クラスが学級閉鎖となりました。大変ご心配をおかけしました。今では欠席する子どもたちも少なくなり学習に生活に最後のまとめにがんばって取り組んでいます。

ところで、17日間の日程を終えて、北京冬季オリンピックが20日に閉幕しました。コロナ禍での五輪でしたので、選手をはじめ関係者の方々は大変な苦労があったと思います。そんな中でもわたしは冬のスポーツには全くといってよいほどなじみはないのですが、毎日のように選手の活躍に一喜一憂させられました。オリンピックはともすると国同士が競い合い、メダルの色や数にこだわりすぎる気もしていましたが、最近では選手主体になりつつあり、選手自身の挑戦の場にもなっており感動も大きくなったようにも思います。特にスケボーやスノーボードは、オリンピック競技になったころは、「スポーツマンらしくない。チャライ。」などと言われていました。

しかし、近年では年齢層が他の競技と比べて若いこともあり、自然体で讃え合ったり励まし合ったりして競技を楽しんでいるように見えます。そのスノーボード、私が一番心に残った選手は岩淵麗楽さんです。2大会連続4位でメダルには手が届かなかったのですが、決勝の3回目に女子では初めての超大技トリプルコークに挑戦。惜しくも両足で着地後、しりもちをついてしまいました。勇気ある挑戦でした。待っていた各国の選手が次々と抱き合い、岩淵選手を称賛したシーンとなりました。今大会は不透明なジャッジや失格宣言、さらにドーピング問題と残念な課題も残りましたが、国境を越えて友情を育むとともに頂点に向かい戦い続けるアスリートたちは、私たちの心にずっと残り続けることと思います。

さて、3月18日(金)には、学校生活のあらゆる場面でリーダーとなり、活躍してくれた6年生が卒業していきます。ぜひ、どの子も自身の描く夢に向かって着実に努力してほしいと願っています。また、25日(金)が修了式となります。お子さんとこの1年を振り返っていただくとともに、ぜひ、新年度もご支援よろしくお願ひいたします。

最後に、本校の教育活動に対しまして、温かなご支援・ご協力をいただきました保護者、地域の皆様に心より感謝申し上げます。